

六中だより



文責

早瀬泰志

第七十七回卒業証書授与式

《第八号の続き》

【答辞 卒業生代表(後半)】

最後に四〇人のみんな、今日までたくさんの時間を過ごしてきましたね。みんなで色々な行事を作り上げる中で、喧嘩になることもあり、ダメなところはダメ、すごいところは素直に褒めて、そうやってここまで進んできましたね。たわいもない会話で、声が出ないほど笑ったり授業中に一人が面白いことを言うと、みんな職員室に聞こえる声で笑ったり、給食でしゃんけんをして笑いあったり、「今日も塾か」といながら勉強したことも忘れることのできない思い出ですね。「うれしい」も「悲しい」も「苦しい」もすべてわかってくれる人、大切な友達ができました。この九年間、そんなみんなにだけ救われたことでしょうか。この大切な仲間と過ごした一瞬一秒が私の宝物であり、みんなも宝物になったことでしょうか。みんな大好きです。たくさんの青春をありがとう。

いよいよお別れです。これから私たちは新たなスタートを切ります。今、私たちがここにいることへの感謝、当り前のことができる周りの

の方々への感謝の気持ちを忘れず、この学校で出会えた先生方や仲間たちへの思いで、学びを胸に前を向いて未来への道を歩んでいきます。

【市長 祝辞】

十代後半は、自立した大人に成長する最終章の時期であり、大変重要な時間であると言われております。常に自分の持つ無限の可能性を信じ、多くの経験を通じて心と体を鍛え、たくましく成長されるときにも、それぞれが描く「夢」を実現されることを願っております。

卒業生の皆さんが、今日の感動をいつまでも忘れることがなく大きく成長され、未来に向かってなお一層飛躍されることを心から期待し、お祝いの言葉といたします。



【PTA会長 祝辞】

皆さんの成長を感じる度に、「思い浮かべる言葉があります。『あいだみつを』さんの

「雨の日には 雨の中を 風の日には 風の中を」という言葉です。雨の日には晴れの日

を想い嘆くのではなく、雨の日をご縁として受け入れ、向き合い、そして乗り越えていくという言葉です。

今、新たな道を歩まれようとしておられる皆さんの前途に、逃れなくなるような事が起きたとしても、現実から目をそらさず、ありのままを受け入れ、前向きに進んでいくください。



【校長 式辞】

学校と社会との違いは様々ですが、学校では学問を通して、答えがはっきりしている問題に対して答えに行き着く方法を学びます。しかし社会では、明確な答えがないことが多く、その答えを自分で考え、探し求めていく力が必要となっていきます。その力をつけるために、まずはこれからの三年間、高い志も持って、夢中になって打ち込む事を見つけて、本気で頑張ってください。そして、その頑張ると決めたこと自体の力をつけることは、もちろん、自分自身の人間性や心の力、感謝の気持ちなど自分自身の内面の成長についても日々、追求してほしいと思います。そして、そのことは、きっと皆さんがその後の人生を力強く生きていくための大きくて強い柱となると思います。卒業生四十名の今の輝きが、さらに増して輝いていくことを期待しています。